

令和4年度博物館実習生製作企画展示

令和4年8月11日(木)

【1 班】

1 タイトル 「世界で一番カラフルな石!？」

2 趣旨

展示の目的は蛍石を通して鉱物の色のつき方や性質について興味を持ってもらい、鉱物の色についての理解を深める。意義としては、知的好奇心を刺激し、実際の「モノ」に接して体験しながら学ぶことができる生涯学習の場である博物館において、実際に蛍石にブラックライトを当てて、蛍石の色について体感することができ、また鉱物の色について興味関心や理解を深めることで、常設展示の見方を変えることにある。

ストーリーとしては、カラフルな鉱物はどんなものがあるのか明確にした後、蛍石を取り上げて色のつき方や性質について解説していく。そして実際に自らブラックライトを当てるという体験をさせる。このようなストーリー展開により、鉱物の色についての理解を深めることで、常設展示にある鉱物（主にCコーナーにある鉱物たち）の色にも興味を持たせることができる。

蛍石を取り上げる理由としては、様々な色の種類があるということである。色のつき方を解説するにあたり、同じ鉱物でも様々な色がある方が解説しやすいうえに、ブラックライトを当てると発光する性質も持ち合わせているため、例として取り上げるものとして相応しいと考える。

【2 班】

1 タイトル 「ゆかいつうかい 貝の世界」

2 趣旨

私たちが生きるのに欠かせない食事には、山から海まで様々な場所の食材が利用されている。その中でも貝類は、古くから食されている海の食材の代表格であるものの、関わる機会が多い割にはその生態や自然界での役割については殆ど知られていない。

そこで、そのように身近だがよく知られていない食材である貝に焦点を当て、その生態や一般的に知られていない一面を知ってもらうとともに、人間との関わりや自然の中での役割を標本と模型、写真などを使い紹介する。

【3 班】

1 タイトル 「聞いたことある? 虫のこえ」

2 趣旨

夏から秋にかけて聞こえてくる昆虫の声には主にマツムシ、スズムシ、クツワムシ、ウマオイが挙げられる。これらの直翅目の昆虫は童謡「虫のこえ」に登場する昆虫たちであり、私たち日本人にとって戦前から親しみが持たれてきた昆虫達である。しかし、1960年前後から始まった高度経済成長にともない「都市へ人口集中（農村や山間部の人口減少）」や「農林業従事者が減少」などの諸現象が現れる。それらは次第に環境変化（悪化）をもたらすことになる。スズムシやマツムシといった直翅目は里山に生息する昆虫たちであるため、生息環境が悪化することによって、生息地が減少している）。2022年現在、群馬県内においてクツワムシやマツムシは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている2）。

それを受けて本企画では夏から秋にかけて聞こえてくる昆虫の中でも直翅目に焦点を当て、身近に感じることがある昆虫たちが実は群馬県内において絶滅が危惧されている種であることを説明する。そして、それらの昆虫たちを保存していくためには自然保護・環境保全に取り組むことが重要であると知ってもらい、自然保護・環境保全の大切さを育成することを目的とする。

博物館実習企画展示の様子



企画展示発表会、来館者展示解説の様子



1 班



2 班



3 班



発表会場（学習室）